

令和3年度標準学力調査 指導方法等の工夫改善計画 【理科】

| 学年 | 課題となる観点 | 児童の誤答の系統と分析 (○) 教育指導上の要因分析 (●) | 課題改善のための《指導場面 (指導時期)》と具体的な取組 |
|----|----------|--|--|
| 4 | 思考・判断・表現 | <p>○太陽の動き方と、影は太陽の反対にできることを問題に結びつけられていない児童が多かった。これは、学習したことを身近な生活に繋げる力が十分身に付いていない。</p> <p>●学習した知識を実際の生活場面と結び付け、実感を伴って考えさせる指導が不十分であった。</p> | <p>《月や星の授業 (7・9・1月)》 家で実際に観察する機会をもったり、映像や模型などを活用したりしながら、体験的に知識を身に付けることができるようにする。その際、既習の内容や生活経験などとも結びつけて考えさせる。</p> <p>《方位についての指導 (通年)》 方位については、日常生活や社会科等他教科との関連を図り、日常生活において使えるようにする。</p> |
| 5 | 思考・判断・表現 | <p>○閉じ込められた空気と水を押し縮める実験で、空気を圧すと、体積は小さくなること、また水は押し縮められないことを正しく理解することができていなかった。</p> <p>●体積や、押し返す力の変化に着目して、空気や水の性質を調べる活動を行うことや、生活の中の事象と関連付けて予想をしたり、仮説を立てたりする力をつける指導が不十分であった。</p> | <p>《もののとけ方 (1月)》 ものが水に溶ける量について、予想や仮説をもとに、条件に着目して解決の方法を発想し、表現させる。</p> <p>《e-ライブラリー (通年)》 前学年の空気と水の性質について、復習を行い、学力の定着を図る。</p> |
| 6 | 知識・技能 | <p>○誤答した全員が水にコーヒーシュガーを溶かして一日置いた時「下のほうだけ茶色くなる」と答えた。このことから、水溶液は均一に広がるということが理解できていなかったと考えられる。</p> <p>●実験を行った時に、色が水溶液全体に均一に広がることから、溶けている物が均一に広がることにも触れたり、図や絵などを用いて表現したりすることが不十分であったと考えられる。</p> | <p>《水溶液の性質 (9月)》 単元の導入時に第5学年の「もののとけ方」の水に溶けたものを取り出す実験を想起させ、水溶液は透明だが物質は水溶液全体に存在し、その物質は水溶液から水を蒸発させることで取り出せることを確認しておく。</p> <p>《プリント・eライブラリー (通年)》 チャレンジタイムやスキルタイムでeライブラリなどを活用して、本学年で取り扱う内容だけでなく、第5学年までの内容に関しても復習する活動を継続して行う。 また、宿題でも繰り返し取り組んでいく。</p> |